

# 10代の心のケア 利用拡大

## 徳大病院の施設 集団生活へ支援



10代向けの精神科ショート・ケア「インフィニティ」の室内。利用者が描いたイラストなどが飾られている＝徳島市の徳島大学病院

徳島大学病院が昨年開設した、心の治療を必要とする10代の子どもの専門のリハビリテーション施設「INFINITY（インフィニティ）」の利用が広がって

いる。児童や思春期の子どもに特化した精神科ショート・ケア施設は県内で初めて。増加傾向にある精神疾患を抱えた子どもたちの治療やケアの拠点として期待が高まっている。

人と関わるのが苦手だったり、家に閉じこもりがちだったりする小学4年生から高校3年生までが対象。精神科医や作業療法士、精神保健福祉士らが心のケアに当たり、少人数のグループで手芸や料理、ゲームなどのプログラムを通じて集団生活になじめるよう支援する。

病院によると、精神疾患

にかかる人の75%が25歳未満で発病するとされる。摂食障害や統合失調症は10、20代で発症する例が多く、子ども向けのメンタルヘルスはニーズが高まっているものの、一般の精神科デイケアは年齢層が幅広いため10代には利用しにくかった。

インフィニティは定員8人で、週に4回、午後1時から3時まで受け入れている。2024年8月に開設し、利用者は月に延べ35人前後で推移している。

同病院精神科神経科の山田直輝助教は「利用者は徐々に増えている。参加者の声を取り入れながら活動プログラムを多様化し、家庭や学校と診療室をつないで子どもが自然体で活動できる場を提供していきたい」と話している。

（山口和也）